

特249

717



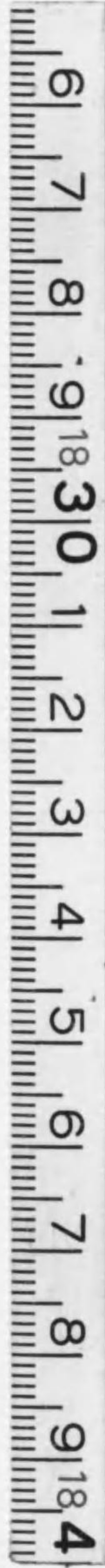
産業報國講演集(其の五)

納本

日本産業道の真髓

吉田 茂述

産業報國聯盟



始



特249
717

はしがき

産業報國運動は今や官民一致の積極的努力によつて、極めて急速に全國的な發展を遂げつゝあるのであります。本聯盟では尙一層その徹底を期するため、此の運動に多大の情熱と卓拔せる識見とを有せられる諸名士の御講演集を刊行し、以て産業報國運動指導者の御参考に供する次第であります。

本書は昭和十四年六月二十一日厚生省主催産業報國指導者講習會に於ける吉田茂閣下の御講演であります。

昭和十五年六月

産業報國聯盟



日本産業道の真髓

序

厚生大臣 吉田 茂述
本聯盟參與

私の申上げることは、恐らく皆さんの兼々御承知のことであると思ふのであります、樂な心持で聽いて頂いて、何かその中に皆さんの御執務の御参考になるものを、皆さんのお力で擱んで頂ければ結構だと思ふのであります。

産業報國運動は一時的のものではない

今日、産業報國運動といふことが提唱せられ、日本の産業界に、今日まで見受けられなかつた各種の國家的見地に立つた強力な統制が行はれはじめましたことは、直接

には事變目的達成の爲といふことを動機として起つたのであります。従つて何と申し
ますか、一時的な色彩を、若干ではない、多分に有つて居ると考へる人々が多いと思
ふのであります。併し私は思ひまするに、決してそれは突發的に起つたことでない。
第一、此の事變といふものが突發的に起つたものでなく、一時的なものでないと思ふ
のであります。之は人類文化の大きな歴史の必然として足を踏み掛けて參つた譯だ
と思ふのであります。殊に我國に於きましては、日本國民の本來の面目に目覺めねば
らぬ天運が循環して、茲に至つて居るのだと思ふのであります。事變が濟んだならば
今やつて居ることは、その儘捨て、終つても宜いといふやうな、左様な一時的な現象
ではないといふことを私は確信致すのであります。

非常時は各國共通である

他の先生方も、或は當局の方からも、既にお話があつたことと思ふのでありますが、

大體今日の指導的立場に立つて居る人々の、之が産業經濟の原則と考へて居りました
事柄に、根本的な修正を加へねばならぬ時期に立至つて居ると思ふのであります。之
は單に日本ばかりではないのであります。各國共にその大きな悩みを懷いて居るの
であります。獨逸ではナチスの運動に依りまして、今までの生活に一大變革を加へて
居る。伊太利ではファツシヨの運動がある。亞米利加ではルーズベルトのニューデー
ルの運動がある。佛蘭西は人民戦線、國民戦線の相剋に悩み抜いて居る。英吉利の産
業界の尤大な機構、十九世紀から今日に至るまで、世界の經濟を支配致しました之も
大きな悩みに當面して居ます。元、英吉利で考へられて居つた自由主義經濟といふや
うなもの、そのままではどうしても立行かないといふことは、英吉利の産業界の凡
ゆる現象を見ましても、直ちに感ぜられることであります。

資本主義、社會主義の行詰

大體今日まで私共の教へられました経済學に於きましては、一切の經濟活動といふものは、人間の持つ欲望を充足する爲の働きとして現はれる、斯ういふ大きな前提を持つて居るものとして考へられて居つたのであります。その結果、今日まで世界を支配致しました大きな資本主義組織が、利潤追求の爲に強力な働きを致しまして、今日の産業經濟の大發展を來したと同時に、資本家ばかりでなくして、同じ考へが労働者を支配致しまして、そこに労働者の利益を産業の中から分前として主張する運動が起つた。所謂労働運動といふものであります。労働者は團結の力を借りて自己の立場を主張し、賃銀の増額を要求し、時間の短縮を要求し、その他各種の労働條件の改善を主張した。そこに勞資の對立相剋といふものが齎された。資本主義に對して社會主義が産まれると云ふ非常な悩みを各國共に受けたのであります。その事の爲に革命の起つた國さへもある。産業經濟の破滅を招いたことも屢々である。人間の生活に恐しい危機を齎したこともある。之は一々短い時間に列擧してお話申さずとも、皆さん御承

知の通りであります。それに對して國家權力を以て勞資双方に彈壓を加へた。自儘の鬭争を許さないといふやうな政治形態を採つて現はれたものが、初期のファッショであり、或はナチの運動であつた。今日は幾分それらも様子を變へて出て來て居ります。

新 し き 課 題

畢竟資本主義も社會主義も、或は權力に依る強度なる統制主義も、凡てそれは人類の經濟活動は之をその儘に現はせば、自分の欲望充足の爲に働くのだといふことを前提として居るのであると、私は思ふのであります。資本家側にはそれが資本主義となつて現はれ、労働大衆にはそれが社會主義となつて現はれる。それを是正しようとする爲政治家の側に於ては、権力統制といふことになつて現はれて來る。之が如何に正され、どうして左様な禍を避けて、産業永遠の平和といふものを確立し得るかとい

ふことが、今日吾々に與へられて居る時代的、歴史的問題であります。人間は之からどう考へて生きて行つたら宜いかといふ問題に直面して居る譯であります。

六

危機に立つ日本

殊に今日日本の立つて居ります立場、支那事變といふものを一つの機縁と致しまして、吾々は英吉利と、佛蘭西と、露西亞と、又或る意味で亞米利加と、誠に深刻な眞劍勝負をして居るのであります。武器を執つて夫等の國々と戦つて居らないだけで、各々の使命立場といふものの上に於きましては、國運を賭けて左様な世界の列強友邦に相見えて居る譯であります。吾々の側に於て、即ち防共協定に於て見れば、獨逸と伊太利が立つて居る。之を全體主義國家とか、自由主義國家とか、皆云つて居りますが、さういふやうな生温い言葉で現はさるべきものではないと思ひます。全體主義の國ではさういふことを言ひませうが、日本人たる者もさうだと考へては、私は

そこに間違ひを起しはしないかといふ危険を感ずるのであります。

此のやうな深刻な時代に當面致しまして、日本の、大日本帝國としての國家體制を整へまする爲には、尙更産業經濟活動といふものは、各々の慾望を充足する爲に行はれるものだといふやうな間違つた考への下に、各々利慾を今日の戦時産業の中から充足しようといふやうなことであつては、到底此の大きな聖戦といふものを達成出来る筈がないのであります。

そこに先程申上げました通り、此の事變に依つて、産業經濟界の實際の動きといふものが誰の眼にも映るやうな變化を遂げ始めたのであります。問題の本質は、吾々の今まで産業經濟に對して懷いて居つた考へといふものを建直さねばならぬと存するのであります。之の建直しが出来ることに依りまして、初めて此の立派な銃後の護りといふものが確立する。單に確立するばかりではなくして、東亞の新秩序を建設するといふ陛下の思召しに副ひ得ることが出来るのであります。延て世界の恒久平和の

七

基礎を固めることが出来るのであります。

統制の精神を理解せよ

役所で行ひますことは、多く現象を捉へて斯ういふ風では困るから斯ういふ風にやるのだといふやうに、それは各種の統制、命令、規則、凡てさういふことで出て居ります。之を運用せられる人達も事變目的を達成する爲に和合を致して之を講じなければならぬといふことでやられる場合が多いのであります。一番大事なこととは根本指導精神を掴むといふことでなければならぬと思ふのであります。根本の心構へが確立して一般統制規則が出て居るのであります。

之からも未だ益々各種の規則が出るであらうし、皆さんの御盡力に依つて之を執行して行かなければならぬのであります。統制は強化せらるゝ一方だから、その志が掴めないで、規則だけを運用してやつて居たのでは、それは幾らやつて見た所で駄

目です。それでは闇取引も行はれ、物資の争奪も行はれる、人間の争奪も行はれる、或は此の頃ぼつゝ見受ける如くに、此の事變の眞つ只中に、労働争議といふやうな忌はしいことも起つて来る。或は殷賑産業界に現はれた各種の、洵に何とも申しやうのない不様な現象が現はれて来る。法令の出ること愈々繁くして犯則は益々殖える。免かれて恥なきやうなことが、此の統制經濟下に於て行はれるやうなことでありましたならば、統制も何もあつたものぢやないのであります。

小智恵の働く圖迂々しい人間が、法網を潜つて得をする。規則に従ふ者は馬鹿を見る。現にさういふ心配が若干あるのではないかと私は思ふのであります。皆さんもそれをお感じになつて居られるだらうと思ふ。甚だ残念なことであります。けれども、上下に亘つて未だ左様な功利打算に基礎を置いた、申さば唯物的な物の考へ方といふものが清算し切れて居らないと思ふのであります。

日本人は利益の爲に動くのではない

大體我國に於きましては産業經濟その他の一切の人間の活動は、自分の慾望充足の爲に之を行ふのだといふことは、道に外れたことだと昔からなつて居るのであります。日本肇國の初めからさういふ不逞な考へといふものは、神様がお許し下さらないのであります。今日に到りまするまで、上御一人に於かせられましては、此の天照皇大神御詔勅の御趣意を、自ら身を以て現在にお示し下さる。今度の支那事變でもさうであります。日本は利慾追求の爲に戦ひをしてゐるのではないのであります。それははつきりお勅語に仰せられて居るのであります。戦ひの相手であります支那との間に、眞の親善提携の實を現はす。その爲に戦ふ。それに依つて東洋の安定繁榮、共存同榮といふことも實現する。延て世界の平和に寄與する爲に、國の總力を擧げて各々努めるやうにといふことをお訓し下されて居るのであります。之を一片の

美辭麗句と拜しましては申譯の無い事なのであります。そのことの爲に吾々の同胞は第一線に於て血を流し、命を捨て、戦つて居るのであります。その意氣は銃後産業の上にも同じに現はれなければ、陛下の思召しに副ふことは出來ない。それが日本の産業道なのであります。

日本産業道の眞髓

銃後産業の爲に必要であるからやるといふのではなくして、それが「報ひ」なのであります。そこに産業報國運動といふものの永遠の意味を吾々は見出さねばならぬ。事變中だから、本當は嫌なんだけれども仕方なしに國家の統制に服するのだと、さういふやうなことでは第一線の兵隊だつて突貫が出来るものぢやない。自分はお國の爲に命を捨てるといふことは誠に迷惑だけれども、徴兵令なり或は色々な強制法規で強制されるから、仕方がないから敵と戦つてゐるのだと考へるそんな日本の軍人は一

人もありはしません。國の爲、大君の御爲に死ぬことが喜びなんであります。その眞心は産業の上にも現はれなければならぬ。戦争の時は現すけれども、日本の經濟戰では間違つても宜しいといふやうなそんな風な考へ方は、考へただけでも身の毛のよだつような不逞な思想であります。今日も未だそれを清算し切れなくて居る人もあるといふのは、何と情けないことぢやありませんか。第一線將兵の心を心として産業に従事するといふことでありますならば、端的に云へば斯うなると思ふのであります。即ち労働者も、事業主も、資本家も、警察の任に當る者も亦、産業の指導監督の職責に任ずる者も、悉く其の立場々々、持分々々を通じて、上御一人の思召しを體して、御國にお事へを申上やうとする誠心が御奉公の道である。之が日本の産業道の根本でなければならぬのであります。之は單に工業に限つたことではありません。農業は固より、商業であらうとも、凡ゆる營みの業といふものは、その營みを通じて御奉公するのだといふことが、我國に於ける産業道の根本の建前であります。

吾々の先祖は産業道を率先窮行して來た

それに依つて、自らに正しい報ひとして身も榮え、事業も繁榮し、そこに御國の無窮の繁榮の基礎といふものが築き上るのであります。他意のないことであります。別に大學の先生に講義をして貰はんでも、自分の魂に訊けばさうだといふことが誰でも解るのであります。極めて簡單な所謂天地の大道、人倫の常經なのであります。吾々の御先祖は率先して此のことを身を以て現はされて、肇國以來何千年経つたこととであります。今日吾々に此のやうに之を遺命されて居るのであります。吾々も亦自ら之を身に現はして、此處に崇め奉つてある天孫の御神勅のまに、天壤と共に無窮にお國の榮えに寄與し奉る役目を果さねばならないのであります。此のことがあるからこそ天壤無窮の御神勅は現實に日本に行はれるのであります。

慾望を總て捨てる必要はない

外國には日本の如く萬世一系であり、天壤無窮である國はないのであります。固より人間に慾望といふものがあるといふことを忘れてはならない。誰しも生身の人間であります。月給を貰ふならば貰ふ方では餘計貰ふ方が宜しい。同じことならば時間も少い方が宜しい。株主配當も同じならば多い方が宜しいといふことを人間は考へる。何も考へずに一切の慾念を捨て、しまつて空々寂々、山の中へ入つて仙人のやうになり、死ぬやうな人間ばかりになつてしまつたら、之では日本は潰れて終ふのであります。生身で結構、俗人で結構です。吾々の同胞は現地で既に數萬を超える程、一切の身も心も君に捧げ奉つて、靖國の御祭神として今日仰がれて居る。さういふ人達は慾もなければ、妻子の愛も感じないか、人情を超越した人達ばかりかといふと決してさうぢやないのであります。各々吾々の友達であり、吾々の親類であり、吾々の同僚で

ある。ちつとも變ることはない。それらの生きた血の通つた、俗念斷ち難い人々が、己れの身内に御先祖から受傳へました尊い魂といふものを銃劍の先に現はして、君の爲にお盡し申上げたことに依つて、夫等の方々は靖國神社の御祭神として、一兵卒も將軍も、親しく天皇陛下のお手厚き御拜禮を賜るといふ境地を現はして居らるゝのであります。それだから日本は天壤と共に無窮なのであります。

かくて日本の經濟は榮えるのだ

洵に俗念斷ち難い吾々では、同じ胸中一片の誠を現はして御國の爲、君の爲に日本産業といふものをお預かりをし、之を通じて自分の臣下の本分を果したいといふ志を立てて之を行ひます所に、産業界の無窮の繁榮といふものの基礎を築き上げるのであります。金が無くなつてもそれならばちつとも心配はないのであります。又此の心持で産業人が懸命に御奉公を致しますれば、幾らでも金などは、若し要るならば流れ

込んで来るが流れ込んで来る必要はないでせう。金を買って見て居る譯には行かないから國家經濟の活力といふものが益々榮えて来るのであります。

それを抛つておいて、金を只掘出してさへ居れば、それを一生懸命やつて居れば、國が持つなどと考へることは、洵に目先の利かない話だと私は思ひます。金を掘出すことも無論結構であります、その事に頼り切る。之は日本國民の奉公の途ではないのであります。

勞資の對立はなくなる

此の志を立てまするとどういふ結果になつて来るか。一體勞資の階級對立なんといふことはあり得ないのであります。以前から勞資一體といふ言葉をよく人が使ひまするがどういふ意味でありますか。對立はあり得ないといふ意味ならば正しいのです。勞は勞の職場に於て、資は資の職場に於て、各々御國の産業の爲に御奉公する、

各人その分を盡すといふことであります。

之は勞資の關係ばかりではありません。國民の凡ゆる階層を通じて人それ／＼の分があるのであります。男には男の分があり、女には女の分がある。年寄にもあれば子供にもある。幹部にもあれば、自ら手を動かし身體を働かして働く勞務者にもある。百姓にもあれば役人にもある。凡ての人がその分を果す。さういふことでありますれば、階級の對立といふことはないのであります。出來得ないのであります。

物資を疎にするといふことも出來得ないのであります。大切なものは之は個人の利慾、欲求追求の爲に使ふのではないのであります。物の自體吾々の御先祖は之を神として崇めて居るのであります。

物資の尊重

百姓がお米を作ることの例を申しますれば、お米に就きましては天孫降臨の初めか

ら、稻穂の御神勅を以てお訓し下されて居ります通りに、日本に於ては、天照大神から高天原の齋庭にお作りになる稻穂をお授けになつたと傳へられて居ます。今日でも今上天皇陛下が御即位の時には、御大禮の一番重いお祭として、大嘗祭といふものを執り行はせられ、その範をお示しになつて居られます。それから毎年新嘗祭、神嘗祭といふやうに御祭事、或は御即位に於てお米を作るといふことは神様の仰せであります。

お米は神様であります。百姓は神として事へる様にお米に事へる。育つ稲草も、納めた稲の一粒も、吾々はそこに神を見出すのであります。それを收穫致しますれば、先づ神棚にお初穂を差上げ、そのお下りを各々が頂く、人にも分つ。さういふ風に吾々の御先祖は次々へ訓へられて居るのであります。陛下御自らその尊い實をお示しになつていらつしやるのであります。

之は稻穂だけに限つたことではございません。紙の一枚だらうと、或は鉛筆の一本だらうが、凡て人生有用なものは崇めて使ふ、拜んで頂くといふことが此の日本の國の掟であります。實踐道德の根本であります。此の志が立つて初めて消費節約といふことが生きて働くのであります。資源の愛護といふことも生きた働きをするのであります。

現在は皆がさういふ心持に徹底して居るかといふと、それがお恥かしいことだけでも頗る徹底して居らぬ。ナチスのやつて居る節約運動にすら遙に及ばぬと思ふのであります。此の御國柄として日本はその事を昔から實踐して來て居るのでありますけれども、今日に至つてそれが頗る亂れて居ります。況んや此の志がありますれば、統制の法網を潜つて闇取引をするなんていふ、恰で現地に於て軍律を破つたと同じやうな不都合な人間なんかが出る筈がないのであります。

一方之は各々の胸の中に御先祖から頂戴して、誰の魂にも宿つて居ることでありますから、今は左様な状態でありますけれども、逐次目覚めて來つゝあるのであります。

す。本當に國民各自、産業經濟の本當の日本の意味といふものを把握し得る時期が参りつゝあるのであります。

統制も必要である

さうなれば統制といふものは要らんじやないかと斯う考へる人があるかも知りませぬ。現にさういふことを廣言して居る向きもあるのであります。統制も實際統制をやる。自肅自戒をやる。別に役所から八釜しく言はれなくとも宜いのだ。さういふ意味で非常に嫌がる者もあるのであります。之も人情で、斯ういふ風にして、強制的に規則攻めにせられることは誰しも嫌でありませうから、さういふことを言ふ人の心情にも、亦そんな點もあると思ふのであります。統制も必要であると私は思ふのであります。

どんなに國民が奉公の志に燃えて居つても、此の奉公といふものを日本國全體の一つの姿に現はすといふことの爲には、やはり向ふべき道が示されなければならぬのであります。各々その立場々々に依つて、幾ら自分は眞面目な御奉公をしようといふ志がありましても、若干ではあるが人間のことでありますから、舵が曲つて終ふのであります。抛つておけば、曲る場合に、東も西も共に正しい方角であつたとすれば、甲は天道様の出る東の方に向はふとする。乙は日の入る西の方を追つかける。その内には晩になつて終ふ。それでは大きな御國の働き、人間の働きといふものは出ないのであります。戦時に於て殊にさうであります。そこに規律統制といふものが必要であります。如何なる場合に於ても戦時に於て殊に必要であります。

日本の軍隊は規律があるから強いのだ

軍隊のことを考へれば之も直ぐ分る。日本の軍人は忠勇無比、奉公の志の厚いことに於きまして、世界に日本の軍隊程立派なものないことは固よりであります。忠

勇無比だからちやんと抛つておいても戦ひはするだらう。成程それは戦ひはします。併しそこに一つの規律統制が與へられなければ人劍一體となつて頑敵に當るといふことは出来ないであります。従つて極めて周密な規律が行はれる。その規律の下に各々全精神といふものを奉公の誠に現はす。安んじて、喜んで、楽しんで、その軍律の下に陛下の萬歳を三唱して、吾々の同胞は眼を閉り得るのであります。我利我慾を指導精神とする人間に取つては、統制と自治といふことは互ひに相容れない反對の兩極でありませう。御奉公を志す者に取つてはそれはびつたりと一致するものでなければなりません。

日本の自治制の特質

之も産業經濟の上ばかりではありません。日本の自治制、日本の立憲政治、左様な政治の働きの上に於ても同じこととあります。西洋の自治制は中央政府の束縛を免が

れやうとして、地方住民が戦ひ取つたものであります。憲法も王權の恣の働きを制御する爲に、國民が戦ひ取つたものであります。日本でもさうであるといふやうな錯覺を持つて居つた人達が少からずあつたことと思ひます。日本では自治制も立憲政治も、共に國民の大政を輔翼し奉る勤めを果す所以の道であります。凡ての物の考へ方が、今日は吾々の持つて居ります正しい魂の働きに依りまして考へ直され、やり直されねばならない。銃後産業の見事なる働きを擧げまする爲に、そのことが根本的に必要であると思ふのであります。

法規を貫く魂

今回の皆さんの講習に於きまして、各種の法規或は統制規則等の御講義もあるでありませうが、それらの凡てを一貫して、何が根本の指導精神であるかといふことを、一つ此處で皆さん方は虚心體得せらるゝことが一番大事であると思ふのであります。

何も六かしいことではないのでありまして、皆さんのお持ちの魂、なんであります。ちやんとお父様、お母様から、遡つて肇國の神々から吾々に傳へられました魂、一貫した日本國の大精神であります。それが吾々の身に通じて今日現はれなければならぬ。又此の魂を吾々の子孫に傳へなければならぬのであります。

此の魂を現はします上に於きまして、今日は洵に千載一遇の機會であると私は思ふのであります。何もかもがそれに依つて初めて御國の使命達成といふことの上に大きな働きを現はし得るのであります。吾々の御奉公に依つてであります。之は併し餘程さういふ覺悟を以て臨みませんと、例へば、中央の色々な統制規則等に私共も携さはらして頂き、お手傳ひをさせて頂いて居りますが、役所で平常事務を執つて居ります人の云ふやうなことを聞いて居ると、まだく規則づけたことを云ふ人が多いのです。凡てが打算で物を決めるやうに習慣づけられて居るのであります。

功利主義の理窟

濫費を戒める時には大體斯ういふ説き方をするでせう。各々が濫費をするといふと悪性インフレが起ると、その通りであります。物價が暴騰すると輸出が出来なくなる。紙幣が紙屑のやうになる。それでは戦も出来ない。君達も困る。だからさういふ困り方をしないやうに消費節約をしると斯う教へるのであります。成程それはさうに違ひないのでありますけれども、さういふ物の説き方では本當に國民にはびんと來ないのです。

それは何か。他人事のやうな氣がするでせう。俺ばかりぢやない。お前はどうか。政府はどうだ。隣り近所はどうだ。俺ばかり節約して見た所で、之でインフレを防げる所のものぢやない。先づ財布に金のある内はうんと使つて、美味しい物でも食はうといふ考へに得てしてなり勝ちであります。

「利害を以て聴し」といふ言葉がよくありますが、あれは支那で行はれる言葉であります。孔子様が「小人は利に聴り、君子は義に聴る」と仰せられた。君子といふものは孔子様の定義された通りに、支那には當時居らなかつた。今日でも居らないことは同じだ。日本ではお百姓でも職工でも、昔から義に生きて居る。利に聴るのが支那の人間の、支那の國民性である。英吉利もさうであります。

日本は道義經濟である

英吉利の立憲政治といふものは、英吉利の上下が利に聴るといふ結果、産み出された一種の團體協約式のものであります。日本の欽定憲法とは譯が違ふのであります。日本人は利には聴りません。利に聴るのは日本人にして日本人らしからぬ連中が利に聴るのであります。さういふことでは到底銃後經濟の全きを得る日本經濟、道義經濟の本質を發揚するといふことは出來ないのであります。御國に事へ、大君に仕へる、兵隊さ

んの銃劍を執つて戦ふ心を心として、初めて消費節約といふものは達成し得るのであります。成程濫費をしては相濟まん、道でない、斯う考へれば喜んで道の爲に誰でも盡せるのであります。

率先して事に當れ

その外凡ゆる事々物々今日まで大體役所であり或は學校であり教へられて來たことは、大抵利害を以て説いて居ります。それでは道義經濟も何も出來る譯はなからうと私は思ふのであります。皆さんが産業界に對して指導される。先づ自ら御國に仕へて、聖旨を奉戴して御奉公をして居るのだといふ境地に立つて、誠を盡して導かれたならば必ず見事な反響があるのであります。

申しては失禮でありますけれども、皆さん方も生身の人間であります。生き乍らの神様ぢやない。及ばず乍らも自分も出來るだけ誠を現はしてお仕へをするのだ。諸君

と共に手を携へて此の國の大事に當るのだといふ志が立てば、それは必ず相手に映らぬ筈がないのであります。「徳は孤ならず必ず隣あり」と申して居ります。無理も無理でなくなるのであります。折角お役人様があゝいふやうに懸命にやつて下さる。吾等も我儘なことをしては相直まんどいふことになるのは當然であります。

劍は斬るためのものではなく活かすためのものである

さうなれば、例へば統制規則の持つて居る罰則なんていふものは、之は抜かざる劍の御威徳を現はしたといふことになる。此處には警察の方もお在でござりませうが、警察官の陛下からお預かり申して居る佩刀は、人を斬る爲の佩刀ではない。陛下の御稜威を、身に體して、帯びまする劍の威徳を現はす爲に警察官諸君は劍を帶して居るのである。その事は凡ての職權——お役人のお預かり申して居る権力行使——の上に於きまして同様であります。

萬々已むを得ない時には、恰度 神武天皇がお示しになりました如くに、劍を以てまつろはざる者をまつろはしめることも已むを得ません。或は又支那の如きに對しては、皇軍を動かしてその威武を現はすといふことも亦已むを得ない。目的は何か。陛下の御詔勅にも仰せられた如く、本當に日支の共存共榮、親善提携といふものを確立する爲にやるのであります。

人倫の常道

皆さんの御職務の對象になる人々も之と同じ心持で行けるのであります。私の申し上げることは、之は何處に行つても、どんな仕事に適用しても決して間違ひのない人倫の常道であると思ふのであります。之は私がさう思ふばかりでなくして、國の肇め以來、數々の詔に左様教へられて居るのであります。又吾々の御先祖はそのことを、身を以て實踐して來て居られるのであります。

只お互ひに日常の煩雑な雑務に没頭して居り、人生の色々なことに煩ひされて居りますので、その本當の魂の働さといふものに時々曇りの差すこともあるので不知識間違ひを起すこともあるのであります。従つて斯様な御修養の機會に、改めて自分の魂といふものを、靜かに自己の中に見出され、志を磨かれることが大切になつて來る譯であります。之は一人で出來ることではありません。

修養行事の必要

此の講習會中に行ぜらるゝ行事は、多分そんな難儀な行事ではなからうと思ひます。各々家で出來ることを此處で皆さんと共に居るのであります。御自分でも平常自ら眼に見、口に説いて居られることを遂行されると共に、自ら行ぜられることが大事であると私は思ひます。さういふことは役所の服務規律にも書いてございせん。又今までの學校の教科書にも書いてありません。學校でも教へて呉れせん。規

則に書いてないから、斯ういふ修養といふやうなことも行はない。併し身に行つて見れば、必ず仕事の能率を増進する所以であり、新しい言葉を假に使はして頂くならば、能率を増進する所以でもあります。一家の幸福の基であります。又延て皆さん方の正しき御榮達への基礎であります。日本の宗教の道といふのは、實世間から遁れることではないのであります。

實世間に正しく身を處するにはどうすれば宜いか、その態度を練ることが日常の修養の道であります。誰でもそれだけの寶物を御自分の身内に持つて居られるのであります。之を現はされることに自ら努めるといふのが修養行事であります。

凡人でも御奉公出來る有難さ

誰も皆聖人君子にならなくて結構なんであります。可笑しい時には笑つて結構であります。癪に障つた時には怒つて結構なんであります。さういふ人間であつて、御國

の爲に盡し得る所に此の國の有難さ、尊さがあると思ふのであります。

みんな聖人でなければ御奉公が出来ないといふことならば、私なんかは御奉公の出来ない眞つ先の人間であります。出来て居るとは自ら申上げられませんか。誠にお恥かしいのでありますけれども、それでも、何かの時にはお役に立たせようといふ勵みを有つ所に、此の國の無窮性といふものがあるのであります。

決してそれは難いことではない。吾々の御奉公は誰にでも出来ることである。やつてみたら上は誠に心に喜びを齎すものであります。楽しんで御奉公出来る。

日本國民は、陛下の爲に死ぬことさへも喜びなであります。出征することはお芽出度いと云つて祝はれることなんであります。

人類の福祉は吾等の双肩にある

歐洲大戰の時の兵隊の出征などといふことをよく聞きますが、彼等に取つては戰

に行くことは悲しみであります。物の考へ方の根本が違ふのであります。違ひまするが爲に最も優れた素質を持つて居る者は日本國民であります。人間は斯様にして生きて行くものだ。産業は斯く經營すべきものだ。政治は斯様にして行はれるものだといふ範を吾々は示すことに依りまして、陛下の仰せられて居る通りに、世界の恒久の平和を築き上げるよう、世界人類の全般の共存共榮の實を、吾々日本國民の御奉公に依つて築き上げ得るのであります。

その使命が吾々の肩に懸つて居る。現代昭和國民の肩に懸つて居るのであります。少しも私は誇張して申上げるのではないのであります。現在さうなつて居るのであります。事實であります。さういふことを吾々の御奉公に依つて實行し得まする時に初めて、成程、日本は侵略國家ではない。今度の戦も侵略ではなかつたといふことが、やつと世界の國々に知つて貰へるのであります。支那人にも呑み込んで貰へるのであります。

試練の楽しみ

それには生やさしいことでは出来ない。時間も掛るでせう。苦心經營、忍耐努力、凡ゆる犠牲を経ねばならないでせう。どんな試練も此の志を以て行ひます時には、それは決して苦しみではないのであります。楽しみなのであります。之はやつて見なければ分らないことなのであります。やつて見ればそれが成程楽しみだといふことが分るのであります。皆さん公務御執行の際にさういふことをお感じになつたことが屢々あると思ふのであります。何か一つの仕事を引受けて、他から見た場合にはその仕事は少しも樂には見えませんが、懸命にその仕事に没頭してその仕事を勵んで行く所に、心の勵みがあると只今申しましたが、その仕事の出来上つた時の喜びと云ひますか、それは親しく身に行つて見たものでなければ分らないのであります。皆さんにはさういふ御經驗が數々あることと私は思ふのであります。今日はさういふ意味の張合

ひ、樂しみといふものを以て、吾々の業務に従事せねばならぬ誠に大切な時期に廻り合せて来て居る譯なのであります。

むすび

別に何の不思議もないことばかり申し上げまして、甚だ恐縮でございましたが、一つでも私の話の中に御共鳴の點がありましたならば、早速御職務の上に御採用下さるならば、洵に幸榮であると存じます。

——終——

産業報國運動要綱 産業報國會の事業

の發行に就いて

曩に厚生省労働局に於ては産業報國運動の理論的指導書として、「産業報國運動要綱」を發行したのであるが、今回産業報國聯盟に於ては産業報國會運営の實踐的指導書として、「産業報國會の事業」を發行するに至つた。兩書は相俟つて姉妹篇をなし、産業報國運動指導者の必携の書である。敢て一讀を乞ふ次第である。

産業報國 パンフレット 産業報國運動要綱

目次

第一章 概説

第一節 産業報國運動の歴史的必然性

- 一 日本精神の昂揚
- 二 戦時經濟體制の整備強化

第二節 産業報國運動の發展經過

- 一 勞資關係の指導精神の轉換
- 二 産業労働政策の進展

第二章 産業報國運動の基礎理論

- 第一節 指導精神
- 第二節 組織理論
- 第三節 産業報國運動の使命と所謂労働問題

第三章 産業報國會

- 第一節 産業報國會の本質
- 第二節 産業報國會の事業
- 第三節 産業報國會の機構

第四章 産業報國聯合會

- 第一節 聯合會設置の目的
- 第二節 聯合會の機構

第三節 聯合會の事業

附 録 産業報國運動關係通牒

定價一部十五錢(送料共)百部以上御注文の場合は一部十二錢。但し送料實費は御注文者の負擔の事

産業報國會の事業

第八輯 産業報國會の事業

目次

第一篇 産業報國會の事業運営に關する指針

第一章 事業運営指針

- 一 産業報國會の會費
 - 二 産業の種類、規模の大小等に依る事業運営上の差異
 - 三 本社の産業報國會と支社分工場の産業報國會
 - 四 産業報國會の役員會及び懇談會
 - 五 懇談會の運営に就て
- 第二章 産業報國會の事業要綱
- 一 産業報國精神發揚に關するもの

二

- 二 生活刷新等非常時國策への協力に關するもの
- 三 作業能率増進に關するもの
- 四 保健厚生に關するもの

第二篇 産業報國會事業に關する事例

- 一、中小企業産業報國會の事例
 - 一 株式会社○○○製造所産業報國會
 - 二 ○○製作所産業報國會の活動狀況
 - 二、大企業産業報國會の事例
 - 一 ○○電氣株式会社産業報國會の懇談會運営事例
 - 二 ○○工業産業報國會の賞狀
 - 三 ○○紡績株式会社産業報國會の運営事例
 - 四 ○○ガス株式会社産業報國會
 - 五 ○○市電氣局産業報國會
 - 六 ○○鑛山株式会社産業報國會
- 註 第一篇全文は本聯盟専門委員特別委員會の答申を基礎にしたものである。
- 定價一部三十錢(送料共)百部以上の御注文の場

合は一部二十五錢。但し送料實費は御注文者の負擔のこと

産業報國聯盟出版物一覽表

産業報國 (産業報國聯盟機關誌)

(月刊・普通新聞紙の四折大廿四頁・一部五錢)

産業報國運動に關係ある凡ゆる記事を網羅掲載して報道す。産業人特に産業報國會役員の必讀の新聞

産業報國聯盟要覽 (菊判二八頁・希望者に無代頒布)

第一輯 産業報國運動に就て

(菊判五〇頁・定價拾錢)

産業報國運動の精神及び趣旨の解説並に成立經過の報告書

第二輯 産業報國會規約事例集

(菊判八一頁・定價貳拾錢)

今後設立される産業報國會の規約作製上の資料として、運動初期に於て結成された産業報國會規約十八を例示し、併せて作製上の注意事項を記述す。

第三輯 労働者と産業報國運動

(菊判三五頁・定價拾錢)

労働者諸君に産業報國精神の何たるかを解りよく解説したもので銃後産業に携はる労働者諸君必讀の珠玉篇

第四輯 産業報國會に就て勞務管理者の心構へ

(菊判三七頁・定價拾五錢)

産業報國會懇談會を如何に運営すべきか、勞務管理者は従業員に對し如何なる態度を以て臨むべきか、實際現場に居て多年辛苦された勞務管理權威者の體験談。勞務係及び産業報國會役員必携の書

第五輯 業種別産業報國會規約事例集

(菊判四一二頁・定價一圓)

全國産業報國會の規約中代表的なもの六十を選び、業種別に整理したもの。今後の規約作成乃至改正の好資料

第六輯 産業報國會に於ける懇談會の運営

(附)事業費の徴收狀況(菊判四八頁・定價貳拾錢)

三

全國七百の事業場に就き、産業報國會懇談會の實狀を精査し、懇談會運営の最善の方法を記述したものを
新刊第七輯 産業報國會に於ける共濟事業
(菊判六二頁・定價貳拾錢)

産業報國會内に於ける共濟事業に關し其の實施項目數十種を擧げ、其の傾向、最高給付金額、最低給付金額、平均金額等詳細に書き記したるものにして共濟事業實施上必讀の書
最新刊第八輯 産業報國會の事業
(菊判九六頁・定價參拾錢)

専門委員特別委員會に於て決定せる産業報國會運営指針並に其の實例を大企業中小企業に分ちて採録、産業報國會待望の書
産業報國會 近時各國の勞働運動及勞働政策
パンフレット (定價拾錢)

ジュネバの國際勞働機關帝國事務所長として二年間歐洲各國の狀勢をキャッチして歸朝された北岡壽逸氏の見聞報告書

産業報國會 産業報國と生活刷新
パンフレット (四六判四九頁繪入・定價拾錢)

「産業報國は先づ生活刷新から」のモットーの下に産業人の生活刷新の具體的方法を平易詳細に述べて餘りなし。生活刷新には缺くべからざる虎の巻
最新刊 産業報國會 産業報國運動要綱
パンフレット (菊判七六頁・定價拾五錢)

産業報國運動の沿革並びに理論的構成を論じ指導通牒を集録せし珠玉篇
會旗とマーク

産業報國運動は全國各事業場を一九とする運動であるので、産業報國會の會旗及び産業報國會會員のマークは統一すべきである。本聯盟に於ては一定の標準型を規定し各産業報國會の注文に應じてゐる。未だ御作製なき會は大いに御利用下さい。
(規定價格)

會旗 上製一旗九十五圓
中製一旗六十圓
並製一旗三十五圓
會員章 上製一個拾錢
並製一個九錢

昭和十五年七月十五日印刷
昭和十五年七月二十日發行

定價拾錢

編輯人兼 發行所 協坂健次
横濱市鶴見區鶴見町二三〇番地

印刷人 寺井藤左門
東京市牛込區榎町七番地

印刷所 大日本印刷株式會社榎町工場
東京市牛込區榎町七番地

發行所 東京市芝區芝公園六號地協調會館内
産業報國聯盟

電話芝(43)自一至三三六番
振替東京一三〇九一八番

終

